

## 市長タウンミーティング

～ テーマ：安心して子育てできる蕨づくり ～

と き：平成 20 年 6 月 29 日（日）

午前 10 時 30 分～12 時

場 所：東公民館 集会室

参 加 者：17 人

市出席者：市長、健康福祉部長、教育部長

### ○市長あいさつ

（市長より、タウンミーティングを開催した趣旨と最近の市政の動向、タウンミーティングのテーマに関する市の現状や取り組みについて説明が行われました。）

### ○意見交換

#### 質問・意見

この地域の学童保育を希望する人数はとて多く、学校が選べるようになってから学童保育室の場所も選べるようになり、その人数の偏りが生じてしまっています。すでに現在、待機児童が 1 年生で出ている一方、低学年の子が学校から遠い学童保育室に通わざるを得ないという状況も出ているのは疑問であり、危険も感じます。

また、2 次募集の応募の件で児童福祉課に行くと対応が非常に冷たく、自分の子どもが見捨てられたような気がしました。希望する学童保育室に“入れる・入れない”ということ以前に、もう少し温か味のある対応ができないのでしょうか。

現在、利用している学童保育室に申し込みをした段階で、別の学童保育室への移動は、1 年間待たなくてはならない決まりがあるようですが、理由によって特例を設けるなど、柔軟に対応する体制があっても良いのではないのでしょうか。児童の安全性を考えたとき、あきが出た場合は、近い学童保育室に移動させてもらえるとかの配慮が欲しいと思います。

## 市長

もともこの地域の学童保育室は、1か所だけであったものを多くの保護者のかたの要望があって今日にいたっている経緯があります。しかし、今のお話しをお聴きして、それでも現在足りない状況にあるほか、学童保育室の環境の違いなどもあり、結果として遠い学童保育室に低学年の児童が通わなくてはならない状況が出ていることが分かりました。

今後、市ではそうした問題に対して、低学年はまず学区を優先していくですとか、いろいろなことを考えていく必要があるのかと思います。学童保育室を同じ環境にすることはなかなか難しいのですが、今いただいたご意見を受け止め、すぐできることは何なのか、そして中・長期的に対応すべきことなど整理して考えていきたいと思えます。

## 健康福祉部長

学童保育室は、基本的に学区別に通うところは決まっています。しかし現在、学区にこだわらず、なるべく皆さんのご希望に添う形を優先した結果、ご意見に出された状況が生じてしまっているのではないかと思います。

また、学童保育室に入っていただく基準が何なのかということですが、保育園と同様に、常勤で働いている保護者のかたに優先度が高いものとなっています。

入室の順番につきましては、年度当初に申し込んでいただいたかたから順次入っていただくことになっています。そのなかで、優先順位が低くなってしまったというかたに対しましては、学童保育室にあきができるときに順次入っていただき、また、学童保育室が遠いなどの事情があるかたの場合にも、同様に待機していただくということになります。

年度途中で入室できないかということになりますと、絶対できないということはありません。児童福祉課の担当も、学童保育室がいっぱいでどうしても入れなく、安易に期待を持たせてはならないという気持ちで働いたのかと思えます。

(※児童福祉課長より：学童保育室では、毎月、入室希望者の受付やあき状況などを確認する入室審査を行っています。今回、ご意見いただいたかたにつきましては、7月の入室審査においてあきがあることが確認できましたので、そのほかの待機児童とともにご希望の地区の学童保育室へ入室していただくことになりました。)

### 質問・意見

学童保育室の申し込みのときに、年度途中での移動はできないと縛られるのはどうしてなのでしょう。学童保育室にあきができたら、年度途中でも動かしてくれる配慮が欲しいと思えます。

## 市長

学童保育室は1年間移動してはいけないという規則はありません。あきができた学童保育室があれば、順番に入れるようになっています。ただし現在、待機児童の状態によって、ご希望に添えないことが考えられますので、実情に合った柔軟な対応ができる仕組みを考えたいと思います。

また、ある学童保育室では、指導員が付き添って児童の安全性を確保したケースもあります。すべてそこと同じようにすることは出来ませんが、低学年の児童が安全に学童保育室に移動できる仕組みも研究していきます。

## 健康福祉部長

学童保育室と学校間の移動に関しましては、これまでの例といたしまして、通行が激しい場所がある場合、児童の安全確保のため、1学期の間だけ指導員が学童保育室のある児童館まで付き添って通うケースもありましたので、どういう形で児童の安全性を確保できるか検討して参りたいと思います。

### 質問・意見

現在、北小学校で行われている「言葉の教室」に子どもが通級していますが、この地区から通うには時間がかかるため、1年間に換算するととても多くの時間、授業が受けられないことになってしまいます。

今現在、蕨には「言葉の教室」の先生が1人しかいないのですが、たまたまこの地区の子ども5人が同じ曜日に通うことが分かっています。5人それぞれの親と障害がある子が移動するのに大変な思いをして遠い地区に通級するのではなく、その日だけでも先生1人がこの地区に来ていただけるとたいへん助かります。

そこで、教育委員会に問い合わせたところ、「言葉の教室」の先生は、県から決められた小学校に配属している先生なので、同じ市でも他の地区の学校に行くことは二重派遣になるため、県に問い合わせてみます」との後、まだ返事をいただけていません。

もし、県だからできないのであれば、蕨市として指導できる教員の配置ができないのでしょうか。子どもたちが授業時間にロスの無いように通えるようにしていただきたいと思います。

### 質問・意見

現在、蕨市には「言葉の教室」が小学校までしかありませんが、この障害で一番たいせつなのは思春期を含めて実は中学生の頃と感じています。

埼玉県でも中学校に「言葉の教室」があるのは数件の市だけという実態を知っていますので、早急に蕨に設置して欲しいとは思っていませんが、せめて先生を増員して、市内の小学校の2か所、「言葉の教室」があれば、

それだけ先生の時間もでき、中学生が小学校の「言葉の教室」で指導していただくということも可能となるのではないのでしょうか。

もちろん他の市では、「言葉の教室」がもっと広い市域で1つしかなく、時間をかけて通ってきているところがあるのは知っていますが、小さい市のメリットを活かした施策を考えていただきたいと思います。

## 市長

「言葉の教室」の先生の他の学校への出張に関しましては、今お話しされた問題を解決できるものかどうか分かりませんが、現在、県で前向きに検討されていることを期待したいと思います。

また、「言葉の教室」が中学校に設ける必要があることが分かりましたが、市だけの問題でなかったり、単独で行うには財政負担がどのくらいなのか今後調査しなければならなかったりするので、今日、この場で具体的な対応策をお示しできなく申し訳ございませんが、ここでお聴きした貴重なご意見は、これから教育委員会と実情に合わせたきめ細やかな対応へのきっかけとなると思われま。

## 教育部長

「言葉の教室」は現在、北小学校1校にしかなく、そこに通っていただいているのが現状です。

また、お問い合わせの件ですが、学校教育課の回答のとおり、先生は県職員ですので、簡単にほかの学校へ赴くことは難しいことかと思われま。ただ、同じ曜日に同じ地区のかたが集中しているということならば、お子さんや保護者のかたの負担を考えますと、可能性として無いとは言い切れないかもしれません。教育委員会では先日お電話いただいたあと、現在、学校教育課から県に要望しているところま。

先生の数を増やして欲しいというお話につきましては、必要な先生の配置を県にお願いしていますが、更なる増員となると財政上の問題もありますので、最大限努力して参りたいと思いま。

また、市での採用というお話もありましたが、資格や待遇の問題など難しい点がありますので、県の職員の増員をお願いする方向で対応していきたいと思いま。

## 質問・意見

防犯に関する問題でもありますが、児童の安全を確保するには、市の職員が道路に立つなどの対応をしてみたいかでしょうか。

## 市長

現在、児童の安全を確保するためなど、町会やPTAなど多くの皆さんが昼に夜にいろいろな形でパトロールをいただいています。そうした皆さんの取り組みのお

かげで、犯罪発生率が確実に減ってきています。更に“安全・安心きれいなまちづくり”を進めていくには、確かに職員の数も必要と考えています。現在、職員数も多いときから 100 人以上減ってきておりますので、全庁的な取り組みは検討課題ではありますが、まずは安心安全推進課の職員でパトロールを実施しています。今後は市民の皆さんのごんばりに職員がどういう形でお応え出来るかを検討していきたいと思ます。

<b>質問・意見</b>	中国四川省の地震災害をきっかけに、耐震化の補助率が 2 分の 1 から 3 分の 2 に引き上げられましたが、それに伴って、蕨市の耐震化計画を前倒しに進められないのでしょうか。特に、報道にあったように、耐震化進捗率が埼玉県内で蕨市は下から 2 番目であるということですが、今まで耐震化に取り組んでこなかった反省を活かして、早急に取り組んで欲しいと思ます。
--------------	---

## 市長

学校の校舎の耐震化を平成 23 年度までに全校行うという計画を立てるときにわかったのが、現在全国的にその取り組みが行われている関係上、工事を請け負う業者を見つけることがたいへん困難になってきていることと、監理する職員の体制からも、4 年という期間を設ける必要があるという点です。したがって、耐震化の問題は、単にお金の問題だけではないという難しさがあります。

また、補助率が引き上げになるには、耐震基準が IS 値 0.3 未満の耐震性がとても低い建物に限ったものですので、すべての学校の校舎が該当するとは限りません。

しかし、地震のときに避難所となる体育館の耐震化もこれから控えていますので、お金の問題が計画時よりも少し余裕ができたのであれば、その点の早期実現に向けて取り組んでいきたいと思ます。

## 教育部長

市長の言われたとおり、校舎の後に体育館が控えておりますので、教育委員会と致しましても、なるべく早期に耐震化を実現していきたいと考えています。ただし、市の学校は IS 値 0.3 未満の校舎が全てではないことや、耐震度調査も行っていないものもありますので、まずは校舎がどういう状況か調査することが必要となってきます。その上で、全体的な計画の見直しも図っていききたいと考えています。

<b>質問・意見</b>	蕨市立図書館をよく利用していますが、ちょっとした質問をすると、通告口調であったり、断言口調であったりなど、私に限らず子どもや図書館に慣れていない大人のかたまですべてそのような対応をする職員がいま
--------------	---

す。行政サービスのすべてを知って利用する人はいないのですから、普通に会話のキャッチボールをして欲しいと思います。

また、図書館では、「利用者の声」というものを投書できるようになっていますが、それは機能しているのでしょうか。つまり、図書館内部だけでそのチェックをするのではなく、教育委員会など外部の人たちのチェックをかけて欲しいと思います。

#### 教育部長

図書館というより職員としてご指摘いただいた対応は必要だと思いますし、十分注意していきたいと考えます。また、利用者の声の問題につきましては、図書館で毎日、朝のミーティングやロングミーティングなどで必ず題材に取り上げ、すぐにできるものはすぐに対応していると館長から聞いています。しかし、お話しにあった問題がなかなか解決していないということです。私からも十分注意していきたいと考えています。

#### 市長

私の市政の目指す方向の1つとして、市民の皆さんに“あったかい市政”でありたいと考えています。施策の中身には財源がかかわるので「全部蔵が進んでいます、1番です」ということはできませんが、私が重視しているのは職員で、その対応によってあたたかさがかなり違うと思いますし、大事な問題であると考えています。

私たちは、皆さんの一つひとつの声から学んでいかなければならないと考えています。私もそうした皆さんの声はすべて把握するようにしています。

#### 質問・意見

塚越公園のブランコの下に水が溜まっていますので見てください。学童保育室がすぐ近くにある公園なのに、いつも雨が上がっても水はけが悪く利用できません。小さな問題ですが対応していただきたいと思います。  
(※当日は雨天でした)

#### 市長

これから帰りに実際に見ていき、検討したいと思います。